

第3回健康福祉専門委員会での主な意見

平成26年1月22日

市役所6階大会議室

(子育て支援)

- ・「子どもの健やかな成長の促進」の「発達障害児の支援システム構築」について、一人でも多くの子どもを健康に育てることができるように、いち早い取組みを期待したい。
- ・「スペクトラム障害」や「テレワーク」など、全体的にカタカナ文字が多いので、カタカナ文字の隣に日本字を入れて分かりやすくしてもらいたい。
- ・「仕事と子育ての両立支援」の「仕事と生活の調和を図る」については、仕事も生活の一部であるので、「仕事と私生活の調和を図る」という表現にした方が適確ではないか。
- ・「すこやかに生み育てる環境の整備」の「乳幼児の感染症や合併症の未然防止を図るため」については、感染症の合併症という意味合いであれば、「感染症やそれに伴う合併症」と書いた方が分かりやすい。

(健康増進)

- ・「生活環境・がん予防と健康寿命の延伸」の「長期療養や死亡原因の多くを占める生活習慣病やがんを予防し」という表現について、がんを生活習慣病の中に含める場合もあることから、「死亡要因の多くを占めるがんや心疾患、脳血管疾患などを予防し」という風に具体的な要因を記述した方が分かりやすい。
- ・「豊かな森林資源を生かした健康づくりの推進」の森林が心身の健康にもたらす効果として「血圧の低下」とあるが、「高血圧の改善」に直した方が分かりやすい。

(民生委員)

- ・福祉協力員については、民生児童委員の労働過重の問題とセットで考えて、押し進めていって欲しい。
- ・民生委員に対して大変だという印象を市民が抱いており、なり手も不足しているので、今後の民生委員児童委員への支援や地域包括支援センター機能の

強化をお願いしたい。

(障害者支援)

- ・ 今後障害者就労支援について非常に重要になってくると思うので、もう少し具体的に記述して欲しい。
- ・ 障害者の社会参加を促すために、障害者自身の「当事者会」という言葉を盛り込んでも良いのではないか。

(認知症支援策)

- ・ 認知症への理解を深め、地域での見守りという観点からも、小学校のうちから認知症に対する勉強は必要だと思うので、「地域で高齢者を支える地域包括ケア体制の整備」の主な施策の「子どもから高齢者まで認知症に対する正しい理解の促進」については無くさないで欲しい。

(高齢者の社会参加)

- ・ 高齢者の認知症予防のために、地域の中における高齢者の社会参加の促進に取り組んで欲しい。
- ・ 高齢者のボランティアや社会参加については、地域の中で様々な分野の知識ある人材を掘り起こして、公共施設等を活用しながら促進していったらどうか。

(医療従事者確保)

- ・ 看護師確保のために、一般教養試験をやめるなど今の情勢に即した採用試験内容にして欲しい。
- ・ 「医師以外の看護師などの医療従事者」の後に「(以下、医療従事者)」という文言を入れたほうが、前後の文章との流れがよく分かる。
- ・ 「看護師をはじめとした医療従事者のスキルアップを図るため、看護師の長期研修派遣や認定看護師資格など各種専門資格の取得を推進」という表現は、看護師ばかり強調しているように受け取れるので、他の職種にも配慮した文章に再考して欲しい。

(在宅患者支援)

- ・「訪問診療及び訪問看護体制充実のため、荘内病院を中心に関係機関との連携」とあるが、荘内病院が中心となってやっているという意味合いにも取れるので、ご一考願いたい。